

現地調査報告

岐阜市トランジットモール社会実験

都市自治体のモビリティに関する研究会

調査日時: 2016年11月20-21日

参加委員: 土方委員 松川委員 三谷委員

(事務局: 篠崎 高野)

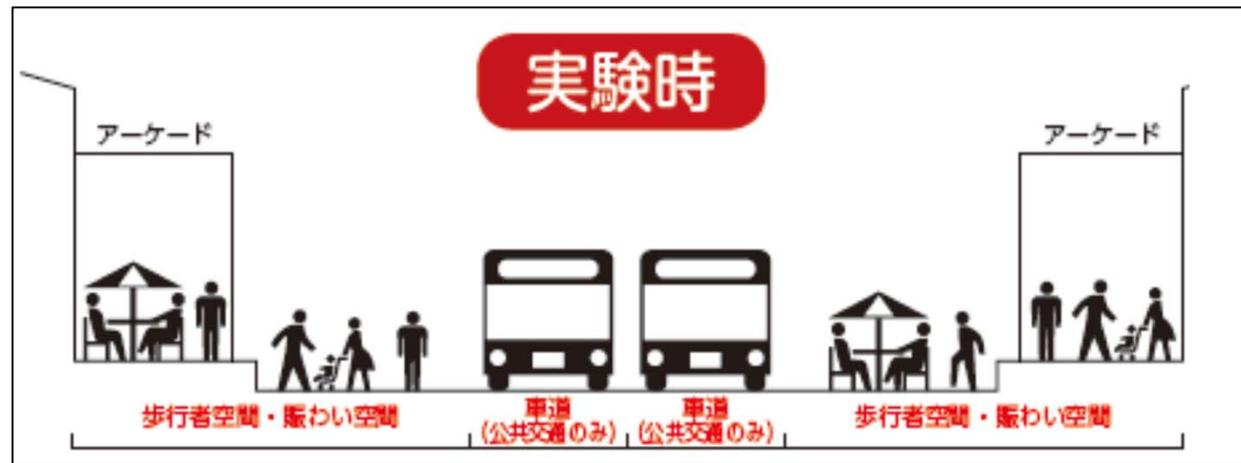


公益財団法人

日本都市センター

社会実験概要

- 日時: 2016年11月19日(土)・20日(日) 10-16時
- 場所: 岐阜市中心部 長良橋通り(金宝町～若宮町)
- 規制概要
 - 4車線のうち外側二車線を歩行者空間化(出店空間)
 - 中央二車線は「バスのみ」通行可
 - 通常のバスに加えて臨時シャトルバス(連節バス)も運行



交通規制断面概要
(広報岐阜No.1799(平成28年11月1日号)より抜粋)

調査対象地概要



- 岐阜市概要
 - 市域面積 : 202.9km²
 - 総人口 : 413,213人
- 市内中央部を東西に流れる長良川とJR東海道本線の間を中心に市街地を形成している。
- 市街地の北端部・長良橋近くに岐阜城・岐阜公園がある
- 郊外に岐阜県庁、岐阜大学など公共施設が立地している。
- 周辺市町村含めた郊外部に大規模商業施設が立地し、中心部が空洞化している。

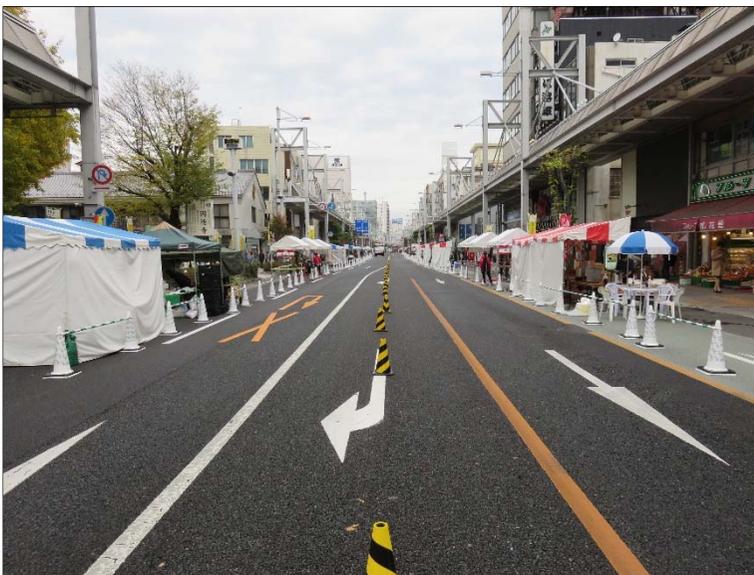
調査対象地概要



- 南北方向の3本のメインストリート
 - 長良橋通り
 - 金華橋通り
 - 忠節橋通り
- かつて賑わった繁華街「柳ヶ瀬」
- 駅前の繊維問屋街
- 社会実験は「長良橋通り」の柳ヶ瀬を中心とした約600mの区間で実施

- 市役所は駅から約2km
 - 市役所の北側に「岐阜メディアコスモス」(市立図書館を中心とした複合公共施設)が2015年にオープン
 - 臨時シャトルバスは駅とメディアコスモスとの間で運行

社会実験実施状況(交通規制・バス運行状況)



社会実験実施状況(各地のイベント)



JR岐阜駅前広場



美殿町オープンカフェ



円徳寺境内(長良橋通り沿い)

トランジットモール区間外の各地でも連動してイベントが実施され、賑わっていた。

- ・JR岐阜駅前広場
- ・岐阜メディアコスモス
- ・柳ヶ瀬のアーケード内
- ・美殿町オープンカフェ



公益財団法人

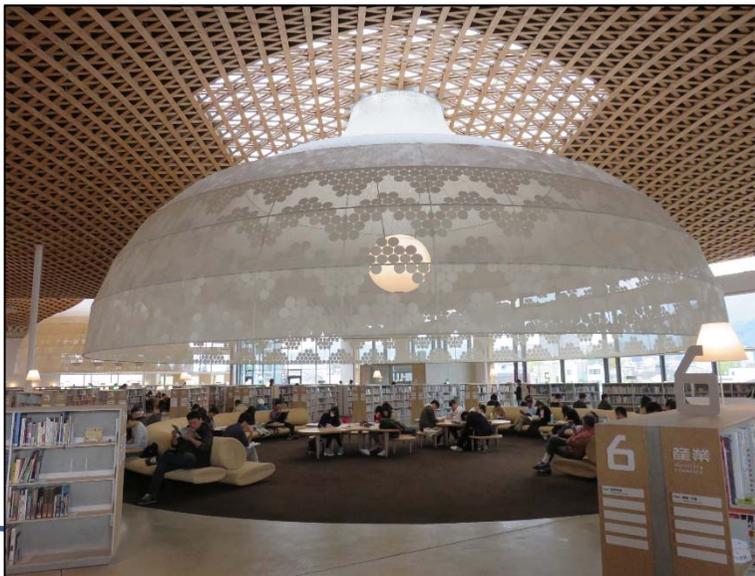
日本都市センター

社会実験実施状況(柳ヶ瀬のイベント)



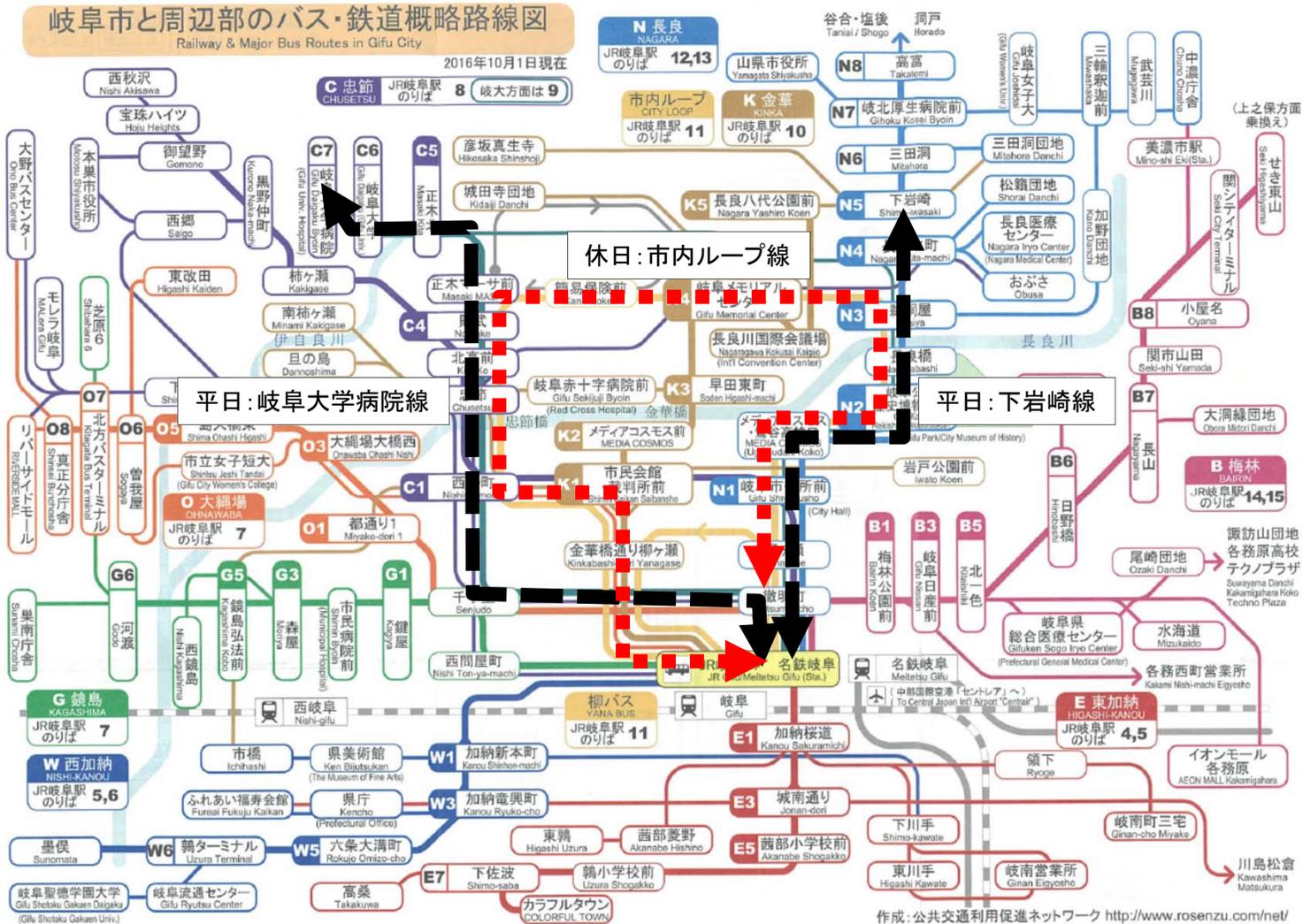
- 柳ヶ瀬では本社会実験以前から「Sunday Building Market」というイベントを毎月第三日曜日に開催
- 30代女性をターゲットにした出店構成(おしゃれな雑貨・工芸品など)
- 出店希望者が多く、審査によるクオリティの確保がなされる

社会実験実施状況(岐阜メディアコスモス)



- 岐阜メディアコスモス(設計:伊東豊雄氏)では環境系のイベントを開催
- イベント来場者だけでなく図書館利用者も多く、シャトルバスの利用は盛況
- シャトルバス利用者数
 - 土曜日:約500人
 - 日曜日:約1700人

BRT(連節バス:清流ライナー)の現状



岐阜大学行バスの待ち行列(月曜朝)



- 岐阜大学行バスは利用者が多く、列車到着のたびに長い列ができる
- 清流ライナーによって多くの乗客を収容でき、待ち時間短縮効果がみえる
- バスターミナルにはわかりやすい案内板・時刻表示があるが、女性案内員が各バス停を回って不慣れな乗客に行先などを案内していた

暫定BRT終点(下岩崎バス停)



- 郊外の交差点の未活用道路空間に暫定的にバス待機所を設置
- 現在の下岩崎バス停にはトランジットセンターとしての機能は無し
 - 待合機能
 - フィーダー(コミュニティ)路線との乗り継ぎ
- 将来的に少し北の商業集積があるところにTCを設置したい
- 岐阜大学線に比べれば下岩崎線の利用客は少ないように見える
 - 現状は並行して下岩崎以遠(高富・三田洞など)に行く通常のバスが多く走っている
 - バス路線再編の過渡期的状況

岐阜市現地調査 調査メモ

調査先：岐阜市企画部交通総合政策課 青木審議監

調査日：平成28年11月21日(月) (11月20日にトランジットモール社会実験を視察)

※岐阜市の公共交通政策全般については研究会にて発表済みのため、主に社会実験に関連した事項をヒアリング

1 社会実験の実施に至る経緯

(1) 社会実験実施の契機と準備期間

- ・ 社会実験を実施することの契機と主体について(市役所・事業者・商店街・・・)

- 社会実験は今回が二回目。かつて市内電車が廃止になるときに軌道敷内の通行禁止などその後の市内の交通の可能性を示すために社会実験を実施した。路面電車のトランジットモールとバスのトランジットモール。どういうものかは市民に知っていただいた。市民はバスも電車も歩行者も一緒に歩いてよいという反応だったが、沿線商店街は売り上げが上がらなかったためあまり良い反応ではなかった。
- 今回は商店街が手を挙げて、店舗などは商店街が全部やっている。周辺の影響、賑わいが生まれるか。
- 来年度は回数・日にちを増やしてやりたい。定期的にやることで効果が上がっていけばよい。
- 商店街の組合は二つある。
- 月一回、柳ヶ瀬で Sunday building market をやっている。若い人を呼び込む。
- メディアコスモスと駅前でもイベントをやっている、これらを連節バスで結ぶ。
- 商店街のやる気を引き出すために今後も引き続き実施したい。

- ・ 実施が具体化・決定した時期

- 2015年12月～2016年1月頃に実施が決定した
- 11月19・20日でやることに決まったのは、警備する警察官の動員の関係で、イベントが無い週にやることになった
- 実施区間は県管理国道。県からの抵抗はあまりなかった。環状線、う回路があるので通過交通の支障はあまりない。
- 沿道の駐車場の利用ができない。かつては商店街の関係者は駐車場が増えればよいと思っていたが、それでは郊外のSCに勝てず、商店街の考え方も変わってきた。

(2) 実施に当たって調整・協議などを要した事項

- ・ 交通管理者(警察)との協議など

- 2004年の初回の時は警察がなかなか許可を出してくれず、難航したが、今回は前回の実績もあり、比較的スムーズに許可が下りた。
- 道路占有許可などの手続きは面的に市が一括して手続きしている。来年度以降は商店街の方がやれるように調整したい。

- ・ 商店街と市役所・事業者との関係

- 歩行者空間に出店しているのは市内だけでなく関の刃物や多治見の陶磁器など県内の周辺都市からも出店がある。既存商店街の刺激になればよい。
- 事業者はバスをアピールする場として協力的にかかわってきた。利用が増えるとは考えていなかったようだが、実際は当日の利用者は多く、想定外だったようだ。

2 社会実験当日の動向

(1) トランジットモール区間のバスの運行実績・利用実績など

- 接続バスの利用者は土曜日 500 人 日曜日 1700 人 想定よりも多い
- 歩行者通行量調査は 32 か所

(2) 各種イベントの集客

- 相乗効果で通常のイベントよりも参加者が多い
- シャトルバスはメディアコスモス・柳ヶ瀬・駅の間の移動手段で、パークアンドライドではない。高齢者も多く移動の補助手段が必要。水平方向のエレベータというイメージ。

(3) 周辺道路の交通への影響

- 目立ったトラブルはなかった
- 一部報道関係など許可車両があったが、冷たい目で見られる・・・
- 流入口での混乱はなかった。規制を始めて止めるときと開放するときは神経を使う
- 今回はタクシーを規制したが、これからはタクシーも入れるようにしないと難しい

(4) その他

・歩行者回遊性調査などの実施状況

- 大阪大学と神戸情報大学院大学の調査 スマホを使った調査

3 今後の課題等について

(1) 社会実験の継続・トランジットモールの常設化へ向けた課題

- 来年度以降は回数・日にちを増やして社会実験を実施していきたい
- これから商店街の関係者とワークショップをやって来年に向けた改善点などを話し合う
- 商店街との関係はこれからの重要なテーマ
- 車道を占有している空間にテーブルや椅子が少なかったのは、法令上の問題ではなく、イベントスタッフなどの人員が集まらず、手配ができなかったというマンパワー不足の問題。
- 横断箇所が少なく横方向の商店街同士が分断されてしまっている。乱横断は道路交通法上できないので、来年は箇所を限定して横断できるようにしたい。

4 その他・社会実験以外の意見交換

(1) 接続バス・BRT について

- 清流ライナー下岩崎線の終点は、現状では何も無いところだが、将来的にもう少し郊外の商業集積があるところにトランジットセンターを作ることを検討している。
- 連節バスは今後増やす予定である。